

高等学校第2学年 保健体育（保健）



本時の目標

循環型社会を目指し
私たちが日常生活で出来ることを考えよう

例のつど

復習 (kahoo) 出題者 + 対話的

- ① 循環型社会とは?
- ② 上下水道について
- ③ 循環型社会実現に向けて
- ④ ふりがえり

健康を支える環境づくりについて、共同編集できるシートや付箋機能を活用しながら、自他や社会における対策を考える。

高等学校第2学年 保健体育（保健）「健康を支える環境づくり（環境と健康）」

■単元の目標

- (1) 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること、それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づいて行われていることを理解できるようにする。
- (2) 環境と健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。
- (3) 環境と健康についての学習に、主体的に取り組もうとすることができるようにする。

■単元の概要

ごみの処理や上下水道の整備についての課題を発見し、循環型社会の実現に向けて個人での取組や社会的な対策について考える活動を行う。

■単元の指導計画（4時間）

第1時 大気汚染と健康

- ・大気汚染の原因と健康影響について理解する。
- ・大気汚染の解決策について考える。

第2時 水質汚濁・土壌汚染と健康

- ・水質汚濁や土壌汚染とその健康影響について考える。
- ・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわりについて考える。

第3時 環境と健康に関わる対策

- ・環境汚染の防止とその対策について考える。

第4時 ごみの処理と上下水道の整備

- ・循環型社会について考える。
- ・循環型社会実現のために、日常生活でできることや社会的な対策について考える。

大気汚染の原因や健康への影響とともに、大気に関わる地球規模の問題についても理解する。さらに、マイクロプラスチックによる大気汚染と健康への影響についても取り上げ、解決策について考える。

一般廃棄物の処理と健康に関する事例から、環境汚染の防止や改善の方策を整理し、そのことを活用しながら産業廃棄物の処理について考える。

ごみの処理と上下水道の整備や、人々の健康を守るために行われていることについて理解するとともに、循環型社会の実現のために、日常生活でできる個人の取組や社会的な対策について考える。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第4時）

【学習活動の場面】

我が国と臼杵市内のごみ処理の現状や上下水道の整備について理解した上で、循環型社会を目指し、日常生活でできることを考えることとした。グループワークを行う際、教師はクラウドで共同編集できるシートを用意し、付箋機能を活用できるようにした。

【子供の「深い学び」の姿】

◆自分が考えた解決方法を付箋機能を使って簡潔に記述

「使わなくなったものをリユースする」「エコバッグを持ち歩く」などの記述が見られた。

◆付箋に書いたことを共同編集できるシートを使ってグループ内で共有しながらディスカッション

個人や社会でできる対策について、㊦ごみの発生抑制、㊧ごみが発生した場合の再使用・再利用方法、㊨循環できない場合の適切な処分方法の3つの手段を切り口として対話する中で、即時性や効果性、実現可能性などの視点が浮き彫りになった。これらの視点や健康に関する原則や概念を重視し、個人や社会でできる総合的な対策について考えを深めた。

◆グループで考えたことを動画撮影

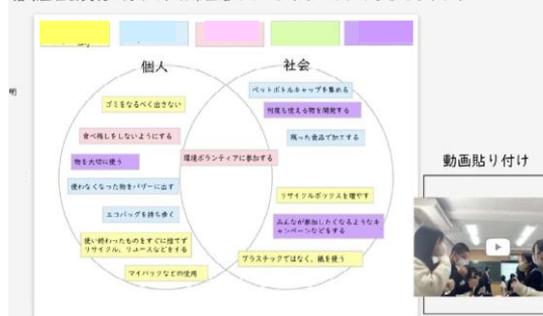
グループでのディスカッションを経て、どんな視点を重視して総合的な対策を考えたかについて発表し、その様子を動画で撮影してシートに貼り付け記録した。

【当該指導での「深い学び」】

日常生活で実現可能な視点を重視し「小さくなった服をフリマアプリなどで売ったり譲ったりする」といった個人の対策とともに、「フリーマーケットなどのイベントを開催する」といった社会的な対策も総合的に考える姿が見られた。汚染物質の排出をできるだけ抑制することが必要であることなどの、健康に関する原則や概念と関連付けながら、個人や社会でできる対策を考えることができた。



循環型社会実現に向けて、日常生活でどのようなことができるだろうか？



■指導上の工夫とICTの利活用

①付箋機能を使って、グループの友達の考えをリアルタイムで共有し、それぞれの問題意識を深掘りしたり、お互いの考えを関連付けたりする活動を位置付ける。

* 端末とクラウドを使って思考をリアルタイムで可視化することにより、その根拠を聞き合う活動が可能になる。また、それぞれが考えた個人の取組や社会的な対策から、共通して重視すべき視点を見いだすことなども可能になり、学びを深めていくきっかけとなる。

②グループで議論した内容を動画に撮って発表する活動を位置付ける。

* 他者の考えを聞き、議論しながら環境衛生に関わる問題点や対策などについて総合的に改善の方策を考えていくとともに、どのような視点を重視して対策を考えたかなどを表現できる場面を創出することが可能になる。

学習指導要領や解説との関連

高等学校学習指導要領 第2章 第6節 保健体育

第2款 第2の2の(4)

- (4) 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 健康を支える環境づくりについて理解を深めること。
 - イ 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。

第3款 1の(1)

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを深く味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。